

蟹江町所在の指定等文化財解説

【 指 定 文 化 財 】

■木造十一面観音立像 一軀 平安時代

龍照院

昭和6年12月14日 国指定

高さ1m73cm、前面一木背矧寄せ両手肩矧という型でつくられ、龍照院の本尊として安置されている。胎内には寿永元年（1182）6月18日の日付と多数の僧名や村人衆の墨書きの銘がある。

穏やかな表情や流れる衣文には藤原末期の技法が使われているが引き締まった頬や肩の曲線には新しい表現がみられる。



■富吉建速神社本殿付棟札5枚

1棟 室町時代

■八劔社本殿 付棟札3枚

1棟 室町時代

富吉建速神社八劔社

昭和28年3月31日 国指定



向かって右側にある富吉建速神社は、一間社流造桧皮葺、向かって左側にある八劔社は三間社流見世棚造桧皮葺。それぞれの祭神は素戔鳴尊と熱田五神である。ともに室町時代後期の建築とされ、前流れの美しい屋根の曲線と桃山時代への推移を示す墓股は特に優れている。

■須成祭の車楽船行事と神葭流し

須成文化財保護委員会

平成24年3月8日 国指定

富吉建速神社・八劔社の祭礼として行われる。起源は定かではないが、牛頭天王信仰のもと夏の疫病退散と五穀豊穡を祈願して行われ、400年あまりの歴史があるとされる。

この祭りでは「車楽船行事」と「神葭流し」に関わる一連の行事が並行して行われる。8月第1土曜日の「宵祭」、翌日曜日の「朝祭」、そして朝祭の翌日の「神葭流し」を中心に、7月初旬から10月中旬にかけて数々の祭事があり、別名「100日祭り」とも呼ばれている。

種々の儀礼や行事が長期にわたって執り行われることは貴重で、天王信仰を基盤とした同種の祭礼行事の典型例であると考えられ、日本の夏の祭礼やその変遷を理解するうえで重要である。

なお、平成28年には、「山・鉾・屋台行事」を構成する祭りのひとつとして、ユネスコ無形文化遺産に登録された。



宵祭



朝祭



神葭流し

■絹本著色千手観音画像 1 幅 鎌倉時代末期～室町時代初期
地藏寺

昭和 30 年 6 月 6 日 県指定

千手観音が婆薮仙（ばすせん）と功德天を侍者として従えた画像で、千手観音像は四十二臂の手と十一面の宝冠をもった通常の姿であるが、腹前で両手に宝鉢を持たない型である。表情はやや硬いが、精妙に美しく描かれている大和絵の秀作である。



■絹本著色文殊菩薩画像 1 幅 鎌倉時代末期～室町時代初期
地藏寺

昭和 30 年 6 月 6 日 県指定

文殊菩薩騎獅像と馭者（ぎょしゃ）と思われる侍者を描いた画像。文殊菩薩は頭に五仏宝冠を戴き、両手で如意を執り、獅子の上に座す。中国画を原画として描かれたものと考えられ、仏身や乗具の精美な色彩と獅子の勇猛な描写が優れている。



■鋳鉄造釣灯籠 1 基 江戸時代
富吉建速神社・八剱社

昭和 54 年 7 月 23 日 町指定

高さ 27.5 cm、火袋直径 23.5 cm、笠直径 31 cm の鋳鉄製の灯籠。慶長拾七年(1612) 壬子五月吉日 尾州名古屋住本町多和又六 の銘があり、その時代の特徴がよく出ている。



■神前鏡 1 面 江戸時代
富吉建速神社・八剱社

昭和 54 年 7 月 23 日 町指定

直径 11.8 cm で 慶長拾八年(1613) 丑九月吉日遠山久兵衛 の銘があり当時の神前鏡として荘厳な形容をよくあらわしている。



■石造狛犬 一対付 1 点 江戸時代
富吉建速神社・八剱社

昭和 54 年 7 月 23 日 町指定

一対のものは高さ 11 cm、付のものは高さ 82 cm。江戸時代初期の製作だと推定される。



■木造狛犬 一対 江戸時代
富吉建速神社・八剱社

昭和 54 年 7 月 23 日 町指定

各高さ 32 cm、長さ 35 cm、 明和六年(1769) 正月吉祥日 の銘がある。宮大工の作と見られ、当時の宮大工の技術がしのばれる。



■棟札 1枚付9枚 安土・桃山時代～江戸時代

富吉建速神社・八劔社

昭和54年7月23日 町指定

高さ67.8cm、幅17cm、厚さ1cm。社殿とともに国の重要文化財となっている棟札5枚に続くもの。造営・修理、信仰、社域、尾張藩との関係などの推移をあらわす資料である。



■須成祭山車人形 2 軀

富吉建速神社・八劔社

昭和54年7月23日 町指定

翁と姥の面とそれぞれの前腕部から指先までの手。須成祭の山車人形として長く使われてきたもので、信仰や民俗、芸能のうえで貴重な資料。



■彩色陶製狛犬 一対

富吉建速神社・八劔社

昭和54年7月23日 町指定

高さ27.5cm、奥行き25.5cm。陶製素焼で彩色が施してある。素朴で古様式をとどめていて製作当時の民間の素朴な信仰をあらわしている。



■須成龍照院のイチョウ 一樹 樹齢400年以上

龍照院

昭和58年3月1日 町指定

樹齢約400年以上、「太閤お手植の銀杏」として伝承されている。乳嘴状の枝張りのある古木で信仰の対象となっている。



■舟入中部神明社のイチョウ 一樹 樹齢400年以上

舟入神明社

昭和58年3月1日 町指定

樹齢400年以上。台風の被害で現在は高く伸びる枝を失ってしまったが、幹の太さは圧巻であり神木として信仰され続けている。



■木造薬師如来立像 1 軀

安楽寺

昭和60年11月28日 町指定

像高40cm、材料は茶の木といわれる一木彫成である。寺伝では弘法大師作とされている。後世に修理された跡があるが量感のある優作で「茶の木薬師」として地元の信仰が厚い。



■木造大日如来坐像 1 軀

龍照院

昭和 60 年 11 月 28 日 町指定

像高 105 cm、桧の寄木造で背面には漆箔が残っている。藤原時代の作だといわれる。修理でやや原型が失われていると思われるが、顔立ちや肩の線などが定朝様の特徴をあらわしている。また、木曾義仲の亡きあと、巴御前が義仲を弔うために大日堂を建て、この大日如来像を安置したといわれている。



■鰐口 1 口 室町時代

龍照院

昭和 60 年 11 月 28 日 町指定

直径 32 cm、龍照院の本寺だった蟹江山常楽寺と明応九年（1500）の銘がある。刻印されている梵字は本尊の十一面観音の種字で、その存在を裏付けている。



■蟹江新町日吉神楽

蟹江新町区

昭和 63 年 4 月 1 日 町指定

金箔・白木・笹神楽屋形とともに江戸時代から伝承されてきた尾張農村部の民俗芸能。金箔の神楽屋形に文政八年(1825)、白木の屋形に文政十年(1827)の銘がある。一時中断もあったが今も古来の形態で伝承され、9 月最終土・日曜日にある日吉神社の秋期祭礼で神楽屋形とともに奉納される。



【登録文化財】

■甘強味淋旧本社事務所・住宅・土蔵・工場 4 棟 明治時代～昭和時代

甘強酒造株式会社・個人

平成 17 年 11 月 10 日 国登録

旧本社事務所は昭和 12 年（1937）、住宅は明治初期の住宅の柱などを使用し大正 12 年（1923）竣工、土蔵は大正 12 年新築、工場は明治 10 年（1877）頃新築、以後たびたび増築されている。本社事務所は蟹江町最初の鉄筋コンクリート造建築であり、住宅は典型的な「近代和風建築」、工場は明治時代の工場建築を示し、その増築状況は当時の当町の味醂業界の伸張をあらわすものであり、近代化遺産として重要である。



■山口家住宅主屋・茶室・表門 3 棟 江戸時代～明治時代

個人

平成 23 年 1 月 26 日 国登録

主屋は江戸時代後期建築、明治期改修、木造平屋建入母屋造茅葺一部棧瓦葺。「四つ建」という尾張の伝統的な造り。茶室は明治 26 年（1893）建築、木造切妻造棧瓦葺。表千家吉田紹敬による設計指導のもと建てられた。表門は明治 41 年（1908）建築、木造切妻造棧瓦葺、桁行 3.8m の腕木門で両脇に袖塀をつけてあり、屋敷の表構えを整えている。いずれも建築当時の典型的な形態を伝えるものであり貴重である。

